

## 7月 臨時教育委員会会議録

1	日 時	令和2年7月6日(月) 午後2時00分から4時30分
2	場 所	磐田市役所西庁舎 301 会議室
3	出席委員	村松啓至教育長 杉本憲司委員、青島美子委員、秋元富敏委員、鈴木好美委員
4	出席職員	吉村康宏学校教育課長、伊藤一司学校教育課長補佐、 松井信治学校教育課主幹兼指導グループ長、指導主事

傍聴人0人

### 1 開会

### 2 議事

#### ・議案第36号「中学校教科用図書の採択について」

○本日は私が司会を務める。本日の議案は、中学校教科用図書の採択についてである。

○議案第36号は、中学校教科用図書の採択に関する議案である。共同採択地区の袋井市及び森町教育委員会の審議に影響が出る可能性があることから、地教行法第14条7項の規定により、本議案に係る審査は非公開で行いたい。異議はないか。

#### ※委員一同異議なし

○それでは、本議案に係る審議を非公開とする。では、議案第36号「中学校教科用図書の採択」の審議に入る。事務局から説明を願う。

○無償措置法第12条第1項により採択地区を設定し、磐田市、袋井市、森町で共同採択を行う。

同法第13条第5項により採択地区内の市町教育委員会は、協議し種目ごとに同一の教科用図書を採択しなければならないとされている。同一採択地区内の市町教育委員会の間で協議を行う方法として「地区教科用図書採択連絡協議会」を設け、採択案を協議し、建議をする。今回は中学校の教科用図書すべての採択を行う。教科書採択については、磐田、袋井、森町を同一採択地区として、各市町の教育長、校長代表、PTA代表で組織された連絡協議会が組織された。第2回連絡協議会では、教科書研究委員より調査研究の報告を受け、教科書採択案を決定した。本日はその採択案を協議し、決議する。

次に、資料について説明する。資料は2種類ある。

資料1は、臨時教育委員会資料である。裏面には、現在使用している教科用図書一覧を載せてある。

資料2は、令和2年度教科書研究委員会研究報告書である。

この報告書は、研究委員が4日間をかけて、県の教科用図書専門調査委員会から出されている教科用図書採択基準等にそって、すべての教科書を調査研究し、研究報告書を作成した。調査研究の観点は、1が「内容」、2が「組織、配列、分量」、3が「生徒の発達の段階への配慮」を表している。

その他に、資料として、中学校の教科用図書見本、教科書調査研究報告書、教科書見本本巡回調査研究まとめ、種目ごとの趣意書がある。なお、教科書展示会意見書については、教科書センターに寄せられた意見はなかった。

報告は、指導主事が連絡協議会で推薦する採択案及び採択理由を述べるので協議願う。

○それでは、磐田周智地区教科用図書採択連絡協議会より提出された資料をもとに、採択案の報告後、採択を行っていく。報告を願う。

○国語科の研究報告をする。

それぞれの教科書を研究した結果、この地域にふさわしい教科書は光村図書の教科書であることを報告する。報告書の1ページを見てほしい。理由は3点ある。1点目は、社会生活において、円滑なコミュニケーションを取れるようにするための思考の方法や表現を豊かにするための工夫が示されていることである。具体的に説明する。調査報告書の3ページ、1年生の9、10ページ「思考の地図」を見てほしい。ここには課題を解決したり自分の考えを高めたりするための手だてとして「思考ツール」の活用に関する説明が、学年ごと発達段階に応じて「広げる」「整理する」「深める」の項目でまとめられている。また、例えばマッピングでは、35ページや80ページで活用できることを示すなど、それぞれの思考ツールについて活用できる単元や教材が示されている。これに対して三省堂314ページにも思考ツールについて示されているが、使える単元や教材は示されていない。このように比較してみると、光村図書はより思考ツールを適切に使用することができ、多角的なものの見方・考え方を養えると考える。

2点目に、生徒自身が身につける力を意識して学習の見通しをもって取り組んだり、対話する力を高めたりする教材が新たに設定されていることである。1年生28ページ、29ページを見てほしい。「見通しをもつ」「とらえる」などの思考の手順やその活動の流れが見開きのページで示されており、生徒が自分自身で見通しをもって学習に臨むことができるようになっている。3年生の114ページ、115ページを見てほしい。「聞き上手になろう」という「話す・聞く」の単元が設定されている。このような「聞く」ことを意識させた単元は全学年に設定されており、「展開を予測しながら聞く」「臨機応変に質問する」など、相手の思いや考えを能動的に引き出すための「質問のしかたや聞き方のコツ」を学ぶことができる。他社では、「話す・聞く」ことの単元はあるが、話し方に特化しており、聞き方についてはあまりふれられていない。光村図書は聞くことに焦点を当て、対話の力を育むことで、新学習指導要領で目指す「主体的・対話的で深い学び」が実現するものとする。

3点目に、生徒の発達段階や興味・関心に応じた工夫がされていることである。例えば2年生の65ページ「自分で考える時間をもとう」でQRコードが示されている。ここでは、筆者がニュースのしかたについての考えを聞くことができる。それにより、情報を受け取る時は、それが発信者の手で取捨選択されたものであるという筆者の思いを知ることができる。生徒がその教材により興味をもち、一層理解が深まるよう、1年生に16ヶ所、2年生に14ヶ所、3年生に13ヶ所示されており、生徒は学校だけでなく家庭でも気軽に見て学びを深めることができる。

以上のことから光村図書の教科書が本地区にはふさわしいと考えた。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○今も、光村図書を使っているが、現行の教科書と変わっている内容はあるか。

○学習指導要領で「何ができるようになるか。」ということが示されており、生徒が見通しをもって学習するという点が、現行のものに比べ明確になっている。また、QRコードの掲載されるようになった。

○例えば「思考ツール」について報告があったが、学びを深めていくうえで、これまでの教科書とは、学習の進め方は違うのか。

○学習の進め方の全てが変わったわけではない。もくじをはじめ、単元の進め方が明確になり、

新学習指導要領にある「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という点が意識されている。

○古典の部分を見せてもらった。光村図書が一番良いと思った。和歌の部分であるが、万葉集、古今和歌集等がしっかりと分けられている。他の出版社は、俳句と和歌が両方一緒に掲載されているものもある。

○光村図書は、構成が多面的、多角的という印象がある。今回は、学ぶ内容が増えていると聞いたが、コンテンツベースの学びだけではなく、もう一つ踏み込んだ学びが必要だと思う。単なる量ではなく、主体的、対話的で深く学ぶための構成が、教科書のどのようなところに見られるか。

○1点目の中で思考ツールの内容を伝えたが、今回の教科書は、いかに子どもたちに考えさせるかという意図を感じる。例えば、思考ツールをどの単元で使うのかということが示されており、子どもたちが自分の力で考えていくことを大切にしていると感じる。

○国語については、光村図書を採択するというところでよいか。

#### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は、国語について光村図書を採択する。

書写について報告願う。

○書写の研究報告をする。それぞれの教科書を研究した結果、この地域にふさわしい教科書は光村図書の教科書であることを報告する。報告書の4ページを見てほしい。理由は3点ある。

1つ目は、子どもが書写の教材を使ってどのような力が身につくか、そして他教科や日常生活にどう生かせるかがわかりやすく工夫されているからである。具体的に説明する。調査報告書の6ページ、82ページ「壁新聞を作ろう」を見てほしい。ここでは、読みやすさやわかりやすさを意識した書き方を身に付けることで学習活動や日常生活で生きる書写力を身に付けることができる。コミュニケーションツールとして、パソコンやスマートフォンを用いる子供たちが増えている。学校生活ではノートやワークシートをまとめたり、掲示物を作成したりすることは手書きで行う場面が多いので、字形や配列を意識して、自らの手で文字を書こうとする態度を養うことで、生活の様々な場面で活用できる能力を身につけることができる。また、書写82ページと2年国語227ページ、書写108ページと3年国語204ページのように、国語の言語活動と同一の活動が掲載されている。国語科と同じ教科書で関連をもたせながら学習することで、書写で身につけた力を、国語の書く教材に生かすことができ、定着を促すことができる。さらに、身につけた書写の力を他の教科や学校生活の中でも生かそうという意欲を高められる。

2つ目には、国語と書写の連携や、毛筆指導と硬筆指導の教材のバランスに工夫が見られるからである。90ページ「季節のしおり」では、国語教材に掲載されている古文をなぞって書くことで、日ごろの国語の授業で自然に連携を図ることができる。また、58ページ、59ページ「点画の変化」では毛筆で行書の書き方を学んだあとに筆脈を意識して硬筆で書く教材が取り入れられている。さらに、表紙をめくると書写ブックという形で取り離してノート形式の教材として使用できる。そして、3年間の学習を確認できる「書写テスト」があり、主体的な学びを促すことができると考える。

3つ目に、発達の段階への配慮がされているからである。34ページには、小学校の学びを振り返るページがあり、小中のつながりという点で、スモールステップで中学校の学習に入っていくことができる。また、教材の配列について教育出版社2ページ、3ページと光村図書31ページを比較しながら説明する。教育出版社は、学年の区切りがはっきりした分け方になっていることに

対して、光村図書は、学年の区切りではなく、学習内容を焦点化して示し、生徒の発達段階に応じて段階的に配列しているが、こちらの方が系統的に学ぶことができると思う。

以上のことから光村図書の教科書が本地区にはふさわしいと考える。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○国語科との関連性の説明があったが、一貫していることは良いことだと思う。

○書写については、光村図書を採択するという点でよろしいか。

#### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は、書写について光村図書を採択する。

地理的分野の報告を願う。

○地理的分野の報告をする。それぞれの地理的分野の教科書を研究した結果、この地域にふさわしいものは東京書籍の教科書であることを報告する。報告書の7ページを見てほしい。理由は3つある。

1 点目は、視覚的に魅力ある資料を扱い、生徒の興味・関心を高め、学習課題を意欲的に学べるようにしている点である。東京書籍の教科書114ページと帝国書院の108ページを併せて見てほしい。東京書籍は他社と比較すると、世界・日本の地域ごとの導入部分で扱われる資料が、単元を貫く課題に繋がり、写真資料を大きく、更に精選して扱っている。その地域の地域的特色を確実に捉えられるとともに、その後の学習を意欲的に進められる工夫がなされている。

2 点目は、日本・世界の諸地域を学ぶにあたってその学習の進め方の視点が明らかにされ、見通しをもって学習が進められる点である。東京書籍の184ページと、教育出版の173ページを見てほしい。両社を見比べると、東京書籍はそれぞれの地域に設けられたテーマ、それぞれの地域をとらえる視点、学習の進め方が記載されており、各地域の特色を追求する術をわかりやすく紹介しながら生徒が主体的に学習できる配慮がなされている。

3 点目は、生徒が自ら課題を見つけ、学びを深められるように工夫されている点である。東京書籍の5ページを見てほしい。東京書籍の教科書は地理歴史公民や他教科との関連マークがあり、社会科のほかの分野や他教科との関連を意識して系統的・横断的に学習ができる仕組みになっている。さらに、東京書籍の教科書243ページを見てほしい。この「振り返りの学習」はクラゲチャートなど様々な思考ツールが使われており、生徒の思考の整理や振り返りをしやすい内容となっている。グループでの対話などを通し、さらに深まりのある学習につなげられることで新たな課題を作り出し主体的に学べる工夫がなされている。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○これからICTの活用が進んでいくと思う。QRコードが多く掲載されているが、教科書の内容以外のことを子どもたちが学べるようになると思うが、その点についてどのように考えるか。

○子どもたちは、自分が追求したい点についてQRコードを活用し、学びを深めていくことができる。さらに、他の教科との関連が明記されている。これらの表記が学びを深めるための目印となる。

○地理的分野については、東京書籍を採択するという点でよいか。

#### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は、地理的分野について東京書籍を採択する。

歴史的分野について報告願う。

○歴史的分野の報告をする。それぞれの歴史的分野の教科書を研究した結果、この地域にふさわ

しいものは東京書籍の教科書であることを報告する。報告書の10ページを見てほしい。

1点目は、生徒が単元の見通しを持ち、興味深く学習が展開できるように構成されている点である。東京書籍の98ページと99ページ、帝国書院の94ページと95ページを見てほしい。それぞれの単元の導入部だが、東京書籍では単元の導入に時代のイメージ図や年表、その単元を貫く「探求課題」と「探求のステップ」などの学習を進める視点が網羅されており、生徒が見通しをもって学習が進められるように工夫されている。イメージ図と年表でその時代を大観できるとともに、年表にはピンクの矢印が入ることにより日本と世界の関連をとらえやすくしてある。また、探求のステップとイラストのコメントにより生徒がより興味深く課題意識をもって学習を展開できるようになっている。

2点目として、生徒が自主的に深まりのある調査学習が進められるように工夫されている点である。東京書籍の教科書127ページの地理歴史公民マークや教科書45ページの教科関連マークがあることで、地理や公民など他分野や他教科と関連付けて学びを進められるため、系統的・発展的さらに教科横断的に学習を進められることである。さらに、東京書籍の60ページ、61ページを見てほしい。単元の振り返りでは「くらげチャート」や「Xチャート」などの思考ツールが使われており、生徒の思考の整理に役立つとともに、表現力の育成につながると考えられる。東京書籍の231ページを見てほしい。「みんなにチャレンジ」のコーナーが設けられている。これにより、それぞれの単元においてグループで協力しながら対話的な活動ができるようになっていて、学習が深められていく。

3つ目として、現代的な課題について、歴史上の様々な視点から、生徒の思考を深めている点である。東京書籍の117ページの「歴史にアクセス」の「女性への教え」、同じく213ページ「女性の政治参加を求めて」においてジェンダー、平等や女性の活躍を意識した内容が、同じく141ページの「もっと歴史」のコーナーの「アイヌ文化とその継承」により人や国の不平等をなくすための内容など、SDGsに関する様々な資料を掲載することにより持続可能な社会の実現にむけて学習がより深まるように工夫がされている。また、東京書籍の221ページ近代以降の偉人には出身県が書かれていて、生徒が郷土に対する関心や郷土愛を高めながら学習できるよう配慮がなされている。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○領土の表記についてはどうか。

○領土については、一般的な内容が記されている。教科書により構成等は多少の違いがある。教科書によって、大きな内容の違いはない。

○教科書により、量的な違いはあるが、日本固有の領土であると表現されている。

○歴史分野については、東京書籍を採択するというだけでよいか。

#### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は、歴史的な分野については東京書籍を採択する。

公民的分野について報告願う。

○公民的分野の報告をする。それぞれの公民的分野の教科書を研究した結果、この地域にふさわしいものは東京書籍の教科書であることを報告する。報告書の15ページを見てほしい。理由は3つある。

1点目、現代的な課題について身近な話題を取り上げながら、思考の深まりを促せる構成になっている点である。東京書籍の16ページを見てほしい。「もっと公民」というコーナーでは、「環

境・エネルギー」「防災・安全」「情報・技術」など生活に密着した現代の諸課題を取り上げ、その課題を主体的に解決できるように工夫されている。また、同じく東京書籍の9ページの「みんなでチャレンジ」というコーナーを見てほしい。ここでも身の回りにある諸課題を取り上げ、グループで協力しながら対話活動をすることや、「ウェビング」などの思考ツールを使いながら、公民的な見方・考え方を働かせて考察することで学習の深まりをねらっている。

2点目、学習の進め方の視点が明らかにされ、見通しをもって学習が進められるように単元が構成されている点である。東京書籍の38ページ、39ページと日本文教出版の34ページ、35ページを見てほしい。東京書籍は単元ごとの導入にその単元を貫く「課題」と「探求のステップ」の記載があり、単元の見通しをもって学習できるように配慮されているが、日本文教出版では漫画での導入で生徒の興味ひくものの、見通しを持った学習という点ではやや劣るといえる。また、東京書籍の36ページ、37ページを見てほしい。社会科の各分野の関連マークや教科関連マークがあり、他教科との関連も意識した構成となっており、社会的事象や現代的な諸課題を教科横断的に深く学べるように工夫されている点は他のどの会社のものより秀逸である。

3点目、持続可能な社会の実現へ向けて、次世代を生きる生徒に適切な資料が提供されている点である。東京書籍の教科書89ページの「18歳へのステップ」の「選挙の流れ」や同じく137ページ「契約のあれこれ」などは、成年年齢の満18歳への引き下げに対応し、主権者意識や消費者としての権利などの知識や技能などを身につけることができるように工夫されている。これと同じような記述は帝国書院の85ページ、86ページにもあるが、イラストや写真を効果的に使うなど中学生向きに細かく配慮されているのは東京書籍であるといえる。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○公民的分野は、東京書籍を採択するという点でよいか。

#### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は、公民的分野については東京書籍を採択する。

地図について報告願う。

○地図についての報告をする。それぞれの地図を研究した結果、この地域にふさわしい地図は帝国書院の地図であることを報告する。報告書の19ページを見てほしい。理由は2つある。

1点目は、帝国書院の地図帳はA4サイズで大判となり、さらに世界・日本の諸地域の資料が豊富で、テーマ別にあつた資料構成だけでなく、地図を活用して教えていくべきである「産業」などの基本的な資料も確実に掲載されている点である。帝国書院の59ページと東京書籍の69ページから始まる「北アメリカ州」に関する各資料を見てほしい。北アメリカ州の基礎資料である61ページの「人口」「気候」「土地利用」「民族」などから、63ページと64ページにある、この地域のテーマである「巨大な産業（農業や工業）」に関する資料も様々な視点から探求できる図版を豊富に扱っている。特に64ページにある「日本との結びつき」についての資料は、この「北アメリカ州」以外の世界の諸地域にも掲載されており、日本と世界の国々についての関係を明らかにできる工夫がなされている。この地域について「授業」で追及するテーマ資料だけでなく、生徒が更に発展的に調査活動をする場合に様々な視点から追求できるよう配慮されている。

2点目は帝国書院の60ページにあるように「地図活用」や61ページの上に見られるQRコードなど地図を活用して課題を見つけて行う自学に対応できるような工夫が随所に見られることである。特にQRコードは地図クイズやNHKforSchoolなど小学校の復習や地図の活用など学ぶ意欲が高まり、進んで学習する機会を提供できるものとなっている。また、帝国書院の174ページ

と東京書籍の176ページを見てほしい。帝国書院は索引のページの上部に「索引の引き方」の説明があることで生徒が素早く調査できる配慮がなされている。また、帝国書院の地図、25ページ、26ページに見られるように世界の各地域のイラスト付きの鳥瞰図や、123ページ、124ページの地図活用の中に「新しく取り入れられたヘルメットマーク」は、生徒の興味・関心を引くうえで非常に効果的であると考えられる。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○地図にヘルメットマークのような防災に関わる表記をするのは初めてか。

○初めてである。

○地図については、帝国書院を採択するというだけでよいか。

#### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は、地図については帝国書院を採択する。

数学について報告願う。

○数学科の研究報告をする。それぞれの教科書を研究した結果、この地域にふさわしい教科書は学校図書の教科書であることを報告する。報告書の21ページを見てほしい。理由は2点ある。

1点目は、数学的活動を通して、話し合いをベースにしながら、子どもたちが主体的に問題を発見、解決する中で、新たな課題を発見する過程が大切にされているからである。3年生教科書を使って、具体的に説明する。学校図書78ページ、教育出版84ページ、東京書籍74ページを見てほしい。ここは2次方程式の解き方について学んでいく学習だが、学習のはじめ方が異なっている。学校図書以外の教科書では、教育出版のように因数分解による解き方か、東京書籍のように平方根による解き方のどちらかから学習に入っている。しかし、学校図書では、78ページのように、まず数学的活動を通して、2次方程式には、因数分解の考えを使う解き方と平方根の考えを使う解き方があることを確認している。単元の学習終了時には、2次方程式をどの解き方で解くのが良いかを自分で選択できる力が求められ、単元の学習を通して高めていく。そのため、学校図書のように数学的な活動を通して、単元の学習に見通しをもつことで、子どもたちにも、その単元で身につけたい力が明確になり、より主体的に学習に取り組むものと思われる。学校図書では、これを「次の課題へ！」という言葉で一貫して表現している。

2点目は、今回の学習指導要領改訂で重視されている「数学的な見方・考え方」に対し配慮されているからである。具体的に説明する。学校図書34ページ、日本文教出版34ページ、教育出版19ページを見てほしい。「数学的な見方・考え方」については、多くの教科書の巻頭や巻末で扱われているが、特に丁寧に扱っているのが、この3冊の教科書である。しかし、その扱い方に違いがあり、学校図書では「いくつかの具体的な数をもとにして、きまりを見つけられるかな。」と子どもへの疑問の投げかけという形をとっているのに対し、日本文教出版では「具体的な数で考える」「目的に合うように変形する」、また、教育出版では「 $c + d$ をひとまとまりにみる。」というような指示になっている。指示により「見方・考え方」の道筋が示されるより、疑問を投げかけられた方が、子どもたちは、そこで立ち止まり、考えることになる。時には、そこに子ども同士の対話的な活動が必要になることも考えられる。このような学びを繰り返すことにより、子どもたちの「数学的な見方・考え方」が少しずつ鍛えられていくことと思われる。この点からも、学校図書の子どもの投げかけの方が、「数学的な見方・考え方」を伸ばすためには有効であると考えられる。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○数学については、学校図書を採択するというだけでよい。

### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は、数学については学校図書を採択する。

理科について報告願う。

○理科の研究報告を行う。それぞれの教科書を研究した結果、この地域にふさわしい教科書は東京書籍の教科書であることを報告する。報告書の28ページを見てほしい。理由は3点ある。

1つは、各節の課題において、自分の考えをまとめ、ふり返ることができるように工夫されていることである。具体的に説明する。例えば、1年16ページの課題に対し、20ページで示されているように、各節ごと、「！課題に対する結論を表現しよう」が設置されている。これにより、授業で学習した内容をふり返り、課題に対する結論を自分の言葉で書き表すことで、思考力、表現力の向上につなげることができる。また、1年20ページの「ノートに書いてほかの人と比べよう」のように、自分が書いた課題に対する結論を周囲の人と比べることで、対話的な学びに発展させることができ、深い学びへと導くことができる。他の教科書と比較すると、学校図書1年23ページ右上の課題に対し、27ページ右下にまとめだけが示されている。大日本図書1年21ページに課題はあるが、まとめは示されていない。このことから、東京書籍だけが、課題に対する考えを自分の言葉で書いて表現するつくりになっている。

次に、各節の探究の流れがわかりやすい点があげられる。具体的に説明する。例えば、1年152ページを見てほしい。東京書籍は、見開きの左下に各節の探究の流れが表示されており、一目で活動の位置づけがわかり、考えるべき内容も確認できるように構成されている。他の教科書は、該当するページに活動の位置づけ（課題やまとめ）の記載はあるが、東京書籍のように一目でわかるつくりにはなっていない。また、154ページの「ここがポイント」のように、課題解決の手助けとなる内容が記載されており、生徒が探究を進めやすいつくりになっている。

最後に、「A4スリム判（見開き構成）がもたらす効果について」である。東京書籍は、他の教科書にはないA4スリム判サイズを採用している。これにより、視線の移動が少なく、流れがわかりやすいレイアウトになっている。また、縦長のサイズを採用することにより、内容の充実が図られている。具体的に説明する。例えば、東京書籍1年38ページ、39ページ、啓林館1年29ページ、30ページを見てほしい。いずれも「種子をつくらぬ植物」について学ぶ内容である。東京書籍は、本文の位置を左側にそろえている。そのため、啓林館のように、本文の左側に資料が載ることがない。さらに、東京書籍1年176ページ、177ページ、教育出版1年275ページを見てほしい。いずれも「力の大きさとばねののび」について学ぶ内容である。東京書籍は、各節のスタートを左ページに統一している。そのため、授業の見通しを立てやすい構成になっている。また、見開き2ページを1単位時間の授業になるように工夫している。これらの工夫により、視線の動きは上から下、もしくは左から右に誘導されることになる。この視線の誘導は生徒の思考を遮ることなく、自然に学び続け「深い学び」に導く道標になる。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○東京書籍がよい。教科書の大きさがよく、色使いもよい。とても見やすい。

○実験の時は、実験を行いながら教科書を開くことになると思うのでスリムなのは良い。QRコードの内容は充実しているか。

○様々な内容が提供される。生徒がタブレット等を使って閲覧できるようになる。



○科学的思考は、様々な教科において重要になってくる。生徒がQRコードを活用して自ら学ぶことは大切なことだと思う。

○理科については、東京書籍を採択するという事によいか。

**※委員一同異議なし**

○確認する。磐田市は、理科について、東京書籍を採択する。

音楽一般についての報告を願う。

○音楽一般について報告する。

それぞれの教科書を研究した結果、この地域にふさわしい音楽一般の教科書は、教育芸術社の教科書であることを報告する。報告書の32ページを見てほしい。理由は、3点ある。

1点目は、学習指導要領で重視されている音楽を形づくっている要素が分かりやすく示されている点である。音楽を形づくっている要素とは、音色、リズム、旋律、速度、強弱、構成等のことである。2社を比較して説明する。教育芸術社「音楽1」の67ページ、教育出版の「音楽1」の64ページを見てほしい。どちらも音楽を形づくっている要素がまとめられているが、2社を比較してみると、教育芸術社は絵や図、楽譜で、教育出版社は言葉で説明され、生徒にとって教育芸術社の方が視覚的に捉えやすくなっている。例えば、私たちは、音楽を聴いたとき、「楽しそうな曲だ」「悲しい感じの曲だ」等と感じる。そのように感じることを裏付けているものが、音色、リズム、速度、強弱等の要素になる。このページに、これらの要素が分かりやすくまとめられているとともに、すべての教材で意識できるよう示されている。具体的に、教材で説明する。26ページを見てほしい。ページの左側に縦書きで「リズム・旋律・強弱・形式」と書かれている。「浜辺の歌」では、この4つの要素を意識させ、どのように歌いたいか、どのように歌うとよいかと、表現について生徒が主体的に考えられる手立てとしている。これは、指導者にとっても学習を進める上で、大事にしたいポイントとなり、指導の参考となる。

2点目は、「生活や社会の中の音楽」という特集ページが充実している点である。「音楽1」の66ページを見てほしい。音や音楽が、生活や社会、文化とどのように関わり、どのような意味や価値をもつのかを、生徒が意識的に考えられるようなページが新設されている。ここでは、「寺の鐘の音」「祭り囃子」「サウンドロゴ」等、音楽は、授業の中だけでなく、日常生活の中で様々な役割を果たしていることに気付かせるように工夫されている。「2・3上下」にも同じようなページがあり、音楽で社会とつながる活動・仕事というように視野を広げて考えられるようになっている。生活の中の身近な事例が取り上げられているため、生徒にとってイメージしやすくなっている。教育出版では、「音楽2・3下」66ページに掲載されている。

3点目は、吹き出しやアドバイスの記述が、主体的・対話的な学びを深める手立てとして効果的に書かれている点である。「音楽2・3上」の16ページ、17ページを見てほしい。ここに記述された吹き出しやアドバイスは、「翼をください」の合唱をする際、どのように表現するか考えるヒントになっている。例えば、17ページの吹き出しに、「歌い出しの旋律は、なだらかな音の動

きだから、落ち着いた雰囲気で歌いたいな」と書かれている。これがヒントとなり、生徒は、音の動きとそこから醸し出される雰囲気は関連しているということに気付く。また、それ以外の曲全体の表現を考える活動につながり、生徒が主体的に考えたり、グループで話し合ったりする活動ができるようになっていく。教育出版では、生徒の言葉ではなく、指導者の言葉として記載されている。例えば「感じ取ったことをまとめておきましょう。」「聴き合ってみましょう。」の記載である。以上の理由により、教育芸術社を選択する。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○教育芸術社がよいと思った。教育芸術社の教科書には、共通教材の作詞者や作曲者の思いが掲載されている。曲への思いが共有できると思う。

○QR コードの使い方についてはどうか。

○演奏の様子等を閲覧できる。視覚的に分かりやすい。

○QR コード等を使うことで、演奏を聞かせることは有益だと思う。

○QR コードは、子どもたちは自宅でも使っているのか。

○親のスマートフォン等を使って閲覧している子もいる。また、タブレットが一人一人に配布されることで、活用はより高まる。

○音楽一般については、教育芸術社を採択するということがよいか。

#### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は、音楽一般について、教育芸術社を採択する。

器楽について報告願う。

○器楽について報告する。それぞれの教科書を研究した結果、この地域にふさわしい器楽の教科書は、教育芸術社の教科書であることを報告する。報告書の34ページを見てほしい。理由は、2点ある。

1点目は、「深めよう！音楽」というページが掲載され、学習目標に迫るための具体的な手立てが書かれていることである。11ページを見てほしい。ここでは、「アーティキュレーションの工夫」が記載され、音の切り方やつなぎ方等、演奏の仕方を変えると曲の雰囲気が変わることについて、例を挙げて紹介している。それらを試しながら、表情豊かな演奏を目指すことができる。この「深めよう！音楽」のページは、教育芸術社「音楽一般」の教科書にも掲載されているため、音楽のどの授業でも、同じように演奏の工夫を意識して活動できるようになっている。教育出版では、教育芸術社に比べると明確には表記されていない。

2点目は、学習の見通しをもって学びを進めることができるということである。8ページ、9ページを見てほしい。ここでは、学習指導要領に示された資質・能力と、それに対応する学習内容や教材が記され、どのような力が付くのか一目で分かるように示されている。さらに、音楽を形づくっている要素についても記載され、音楽を聴いたり演奏したりする際の視点につながっている。このページは、生徒・指導者ともに、学習の全体を見通すことができるようなつくりになっている。教育出版では、教育芸術社に比べると明確には表記されていない。以上の理由により、教育芸術社を選択する。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○器楽については、教育芸術社を採択するということがよいか。

#### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は、器楽について、教育芸術社を採択する。

美術について報告願う。

○美術科の研究報告を行う。それぞれの教科書を研究した結果、この地域にふさわしい教科書は日本文教出版の教科書であることを報告する。報告書の35ページを見てほしい。理由は3点ある。

第1に、生徒が表現方法を工夫しながら制作することができる内容や、生徒が、生活や社会の中にある美術と関わりながら作る喜びを味わうことができる内容となっているからである。具体的に説明する。日文の美術1の12ページの左下を見てほしい。各題材に吹き出しを使った「造形的な視点」を掲載することで、生徒が主体的に考えて活動に取り組んだり、他者と対話をしたりすることで美術的な見方や考え方を広げるきっかけとなる。そして美術2・3下の32ページ、33ページを見てほしい。ここでは「最後の晚餐」や「平等院鳳凰堂」等について復元や修復にも触れることで、鑑賞としての対象としてではなく、美術文化を未来に受け継ぐためにどこまで残し、どこまで修復するかなど文化の継承の在り方について考えることができる内容となっている。また、美術2・3上の6ページ、7ページを見てほしい。ここでは中学生がみつけて撮影した身のまわりの美を掲載することで、生徒自ら主体的に見つけてみようとする意欲が生まれ、自分が生活や社会のどこに美を見い出したかについて考える内容となっている。

第2に、生徒が系統的・発展的に学習しやすいように工夫されているからである。具体的に説明する。始めに、開隆堂出版と光村図書の教科書は2・3年で合冊されているのに対し、日本文教出版では「美術1」、「(美術)2・3上」、「(美術)2・3下」の3分冊構成になっている。新学習指導要領では2年生、3年生それぞれの発達を重要視する文言が新設され、3分冊構成にすることで指導者は特に、第2、第3学年の上・または下の中から生徒の発達の特性を考慮しながら内容を選択し、一題材に充てる時間数等を十分検討しながら進めることができる。そして、第2、第3学年で上と下とすることで、さまざまな既習事項と関連付けながら学びやすくなり、生徒の資質・能力を更に高めたり、生徒個々に合わせたきめ細かい学習指導がしやすくなったたりしている。

第3に、生徒が興味・関心をもって意欲的に考えを広げ、深めたり、発達の段階に応じて制作を進められたりするよう工夫されているからである。具体的に説明する。美術1の6ページ、7ページを見てほしい。ここの導入ページでは小学校の図画工作を学んだ中学1年生が、3年間の自分自身の成長や見方・考え方の広がりや右肩上がりの道で分かりやすく示すことで、中学校美術の表現や鑑賞活動に対しての期待を膨らませ、学びを高められるように工夫されている。また、日本文教出版の美術2・3上の28ページ、29ページ、開隆堂出版の美術2・3の48ページ、光村図書の美術2・3の26ページを見てほしい。ここには「葛飾北斎：神奈川沖浪裏」の作品があるが、波の青や背景の色を比較して見てほしい。日文の教科書は高精密印刷技術により、全てのページにおいて実物により近い状態を再現することで、形や色、表現方法についても見方や考え方をより広げ・深めやすく工夫されている。以上の観点からも、日本文教出版の教科書は総合的にバランスの取れた中学生にとって学びやすい教科書となっている。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○2、3年生の教科書が、上下に分かれているのはなぜか。

○学習指導要領では、学習の目的が、1年生と2、3年生で一つのまとまりとなっている。2つの学年の目標がまとまっているのは、各学校が教育課程の編成を通して、どの内容を、どこで学習するのかを生徒の実態に合わせ弾力的に決定するためである。分冊になることで、1年生の学

びを基本として、2年生と3年生の発達の違いを考慮して、学習が積み上げられるようになっている。

○古いから、現代のものまで幅広く扱われていてよい。

○美術については、日本文教出版を採択するということがよいか。

#### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は、美術について日本教育出版を採択する。

保健体育科について報告願う。

○保健体育科の研究報告を行う。

それぞれの教科書を研究した結果、この地域にふさわしい教科書は大修館書店の教科書であることを報告する。報告書の38ページを見てほしい。理由は3点ある。

1点目は、本教科書は、今回の学習指導要領改訂で初めて示された、保健分野における「技能」の内容や、「がん教育」に対する内容が大変充実していること、そして、これからの教育に求められる「主体的・対話的で深い学び」につながる資料が充実していることである。具体的に説明する。技能の充実については、大修館書店の教科書の52ページ、53ページ、東京書籍の教科書42ページを見てほしい。大修館書店の内容は「心身の機能の発達と心の健康」の「ストレスへの対処」としてリラクセーションの方法を身に付ける実習のページである。呼吸法や体ほぐしの運動が2ページにわたり具体的に示されており、他社よりも多くの方法が紹介されている。生徒が教科書を見ながら実際に行うことで心身の負担を軽くする対処方法を身に付けられる内容になっている。また、「がん」教育については、大修館書店の教科書の80ページから84ページ、大日本図書の教科書74ページ、75ページを見てほしい。大日本図書をはじめ、他社が2ページ扱いであるのに対し、大修館書店は4ページを使って、がんの予防には適切な生活習慣を身に付ける事が有効であることや、健康診断やがん検診などで早期に異常を発見することの大切さなどが詳しく説明されており、がんという病気に対して生徒が様々な視点から考えることができるように工夫されている。

2点目は、メッセージ性のある本文見出しのもと、学習内容を細分化して説明することで、生徒が基礎的・基本的な知識を理解しやすいよう構成されていることである。具体的に説明する。大修館書店の教科書142ページ、143ページ、学研の教科書158ページ、159ページを見てほしい。共にエイズとその予防についての内容が掲載されている。二つの見出しを比較してみると、学研の見出しが「エイズ」、「エイズの予防」となっているのに対し、大修館書店の方は、「エイズは免疫を壊す病気である」「エイズは予防できる」といった「〇〇は〇〇である」という形式の表現になっているため、生徒は学ぶべき内容を的確に把握することができる。大修館書店の教科書では全ての見出しがこの形で統一されている。さらに、大修館書店では本文に「エイズとは」と「エイズの問題点」「エイズの感染経路」「エイズの対策」の4つの小見出しを設け丁寧に説明することで、生徒が理解しやすくなるよう工夫されている。

3点目は、教科書の各所で中学生の興味関心の高い話題や、心に響くメッセージ等を紹介し、生徒が関心をもって、主体的に学習するための工夫がされていることである。具体的に説明する。大修館の教科書46ページを見てほしい。左下に元卓球選手の福原愛さんのコラムが載っている。その他にも、元プロボクサーの内藤大助さん、プロ棋士の藤井聡太さんなど、多くの著名人や中学生と年齢が近い人たちのエピソードやメッセージが掲載されている。中学生にとって身近で関心をもちやすい人物の写真やエピソードは、生徒の興味を引き、今後の生活や人生、社会に生か

そうという気持ちを高めていく。また、今、見ているページのように、資料やコラムに枠をつけて本文と分けたり、ユニバーサルデザインフォントを使用したり、誰にでも使いやすいような配慮は、生徒の主体的な学習の一助を担う。以上のことから、この地域にふさわしい教科書は大修館書店の教科書であることを報告する。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○保健体育科については、大修館書店を採択するという事でよいか。

#### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は、保健体育科について、大修館書店を採択する。

技術・家庭科について報告願う。

○技術・家庭科の研究報告を行う。

技術・家庭科については、各社とも技術分野と家庭分野の2つの分野に分冊されているが、それぞれの教科書を研究した結果、この地域にふさわしい教科書は開隆堂の教科書であることを報告する。報告書の43ページを見てほしい。技術分野、家庭分野のそれぞれの分野に共通する理由が2点ある。

1点目は、新しい学習指導要領が求める問題解決型の学習において、生徒が見通しをもって授業に参加しやすいことである。技術分野の開隆堂1・2ページの見開きページを見てほしい。ここには技術分野の、学習の全体像が示されている。これにより、生徒は、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、生活を工夫したり、新しい考え方を創造したりする学習を進めていくことができる。1時間、あるいはひとまとまりの授業において問題解決を進めていくために、生徒一人一人が見通しをもち主体的に取り組めるよう、最も「学びの可視化（見える化）」が図られていたのが開隆堂である。それでは、具体的に3社の教科書を比較しながら報告する。

はじめに技術分野からである。開隆堂56ページ、57ページを見てほしい。技術分野は、身近な生活における問題を発見し、課題設定から解決・評価できる力を育むことが求められている。ページ中央部のピンク色の枠では、「身近な問題の発見」や「社会とのつながり」から「課題の発見」「設計・製作」「評価・改善」までの具体的な考え方を見開きページに大きく示し、学習目標や学習活動についての見通しをもたせている。さらに、57ページの青い枠の部分には、課題解決の方法が1つではないことから、複数の手段を例として示している。東京書籍にも同様の内容を扱ったページがある。東京書籍の68ページを開隆堂と並べて見てほしい。東京書籍では、右上に「問題の発見」や「課題の設定」と題して一文の記載はあるが、考え方や解決方法等は説明が不十分であり、比較すると開隆堂の方が流れを把握しやすい構成になっている。教育図書26ページを見てほしい。こちらは、実習例を中心とした構成だが、「なぜ、どうして」という学習課題等に触れた記載はなく、実習ありきの感があり、思考の流れが明確に示されていない。

次に、家庭分野について報告する。開隆堂118ページ、119ページ、東京書籍74ページ、75ページを並べて見てほしい。開隆堂118ページの中央に、実習においては生徒がイメージしにくい「2 ひたす」「3 混ぜる」という工程の写真が掲載され、作業の流れがわかりやすく示されている。また、材料の表示では、アレルギー物質を含む食材に黄色の表示が使われており、安全面への配慮がなされている。さらに、右のページ119ページのハンバーグの調理については、「6 煮る」という工程を明示することによって、生焼けを防ぎ、食中毒を防止するなど、同じく安全面への配慮がなされている。対して、東京書籍74ページでは、「ひたす」という工程の写真がないため生徒がイメージしにくく、戸惑うことが予想される。また、「2 たねを作る・混ぜる」とい

う工程の写真は、指先の動きがわかりにくいいため、同様にイメージしにくいものである。このように、生徒にとって作業工程を視覚的に捉え、正しく理解して、安心して作業に臨める点、さらにアレルギー対策など「食の安全」についても十分に配慮されているのは開隆堂である。

2点目は、地域や社会への視野を広げ、これからのよりよい社会づくりに向けた取り組みの内容が充実していることである。はじめに、技術分野について具体的に報告する。開隆堂 242 ページを見てほしい。ここから、18 ページにわたっていろいろな実習例が示されている。「情報の技術」領域においては、すでに小学校で必修化されたプログラミングについて、さらに深く学習する。現在、磐周地区3市町の学校および技術科の教員においては、小中連携も考慮した上で、スクラッチというプログラミング言語や「micro:bit (マイクロビット)」を、積極的に扱ったり研修を進めたりしている。これらの言語は、この 242 ページ以降で紹介されているブロック型言語に分類され、扱いが比較的容易であり、アニメーションや双方向通信などの機能が豊富であるなどの利点がある。この点について、開隆堂 280 ページ、教育図書 210 ページを並べて見てほしい。開隆堂は、このブロック型言語について、5 ページにわたり基本操作から変数の扱いまで具体的に説明し、さらに、本編内においても 20 箇所以上の図や資料の掲載があるなど、この言語を中心に据えて構成している。対して、教育図書は、いろいろな言語を平均的に掲載しているため、ブロック型言語は少ない割合の掲載にとどまっている。磐周地区にとって、より実用的で、授業の深まりが期待できるのは開隆堂であり、生徒の問題解決力を育むことにつながると考える。続いて、家庭分野について報告する。開隆堂 60 ページを見てほしい。高齢者のイラストがあるが、「高齢者＝要介護者」という考えではなく、「高齢者は、よりよい社会を築く上で協働していく一員」として捉えるという説明が記載されている。それに対して、東京書籍 258 ページ、259 ページ、教育図書 28 ページ・29 ページを開隆堂と並べて見てほしい。東京書籍は、高齢者の身体的な衰えと、それを理解した上での関わり方が示されている。教育図書は、高齢者疑似体験についてページの多くを割き、体験を通してどのような介助が必要かを考える流れとなっている。これら開隆堂以外の2社は「高齢者は介助される存在」であるかのような捉え方がうかがえ、共生社会の構築の観点からやや外れていると感じる。また、開隆堂 58・59 ページを見てほしい。ここでは「多様な人々と生きる持続可能な社会」という視点から、59 ページでは LGBT にも触れ、差別や偏見の壁を取り除くための記載がある。同様に、開隆堂 173 ページを見てほしい。ここでは、女子生徒の制服について取り上げ、ジェンダーの面からも注目すべき身近な資料を掲載している。それに対して、他の2社は、このような例は掲載されていない。激しく変化するこれからの社会においては、柔軟に新しい情報を受け入れ、生活や習慣を見直し、互いを尊重しながら、よりよい社会を形成していく姿勢が求められている。授業を進める上で、幅広い情報が提供されているという点で開隆堂が秀でている。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○パソコン関係の授業は何年生から始まるのか。

○1年生から学習していく。

○数学の統計とのつながりはどうか。

○表計算ソフトを使った統計処理となると高度な技術となるので、そうした教科横断的に物事を考えることができるように、技術では、ワープロソフトの基本的な使い方を学習したり、表計算ソフトで表を作成したりする等、基本的な学習を行う。

○プログラミング教育については、コマンドを選ぶ、使えるというだけが目的ではないと思うが

どうか。

○まず、小学校では、プログラミング的思考として、筋道を立てて物事を考えるということ意識させていく。そのため、プログラム学習ソフトを使うこともある。こうした学習の積み上げをして中学校では、教科書にあるような技術的な内容を学んでいく。

○中学校の場合は、評価もするのか。

○中学校については評価をする。

○技術分野については、開隆堂を採択するという事でよいか。

#### ※委員一同異議なし

○家庭分野については、開隆堂を採択するという事でよいか。

#### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は技術分野について、開隆堂を採択する。

磐田市は、家庭分野については、開隆堂を採択する。

英語科について報告願う。

○英語科の研究報告を行う。

それぞれの教科書を研究した結果、この地域にふさわしい教科書は光村図書の教科書であることを報告する。報告書の49ページを見てほしい。理由は3点ある。

1つ目は、3つのUnitと、その中で身に付けた表現を総合的に活用する言語活動 You Can Do It! をワンサイクルとした学習により、新学習指導要領が求めるコミュニケーションの力を効果的に育成できる点である。具体的に説明する。Here We Go! 2年生の教科書、2ページの目次を見てほしい。生徒たちは、Unit1, 2, 3と学習を進め、それぞれのUnitの中で新しい表現を身に付けていく。これらの学習を終えた後に取り組むのが、You Can Do It!である。ここでは、「わが町観光プランをおすすめしよう」というテーマが設定されている。生徒たちは、Unit3までに身に付けた表現を用いて、実際に自分たちの町の魅力を紹介する言語活動に挑戦する。このように自己表現する場を設定することで、新たな表現が定着するとともに、達成感やなぜその表現を学ぶのか、その意義を実感することが期待できる。

2つ目は、磐周地区の生徒の課題である「即興で話す力」を育成する言語活動が充実しているという点である。具体的に説明する。2年生の教科書128ページを見てほしい。これは、6枚の絵を頼りに教科書本文のストーリーを自分の言葉で再現するStory Retellingという活動である。これは従来の教科書にはなかった新しい言語活動である。続いて136ページを見てほしい。このLet's Talk! は、準備に時間をかけず、コミュニケーションに取り組むことができる教材である。毎時間、短時間で継続して実施する活動で、重要表現を繰り返し使いながら系統的に表現の幅を広げていく工夫がされており、即興で話す力を高める効果が期待できる。

3つ目は、小中一貫の視点に立った時、1年生が無理なく中学校の学習に入っていくことができるよう配慮されている点である。具体的に説明する。Here We Go! 1年生の6ページ、New Horizon 1年生の4ページを見てほしい。どちらも小学校外国語活動の振り返りを行う場面だが、Here We Goは27ページにかけてわかりやすい絵や音声を中心に丁寧に学び直しができる構成になっている。これに対して、New Horizonは9ページまでの6ページ分で行うことになっており、1ページの中に多くの内容が盛り込まれている。次に、Here We Go! の32ページ、33ページ、New Horizonの14ページ、15ページを見てほしい。Here We Go! のこのページでは、一般動詞の肯定文と否定文という1つの言語材料に絞って学習するようになっている。一方で、New Horizonは、

be 動詞の疑問文、一般動詞の疑問文と否定文を同時に取り上げており、一度に扱う言語材料が多く、生徒が理解・習得する上で混乱を招くおそれがある。また、本文の量も、Here we go! は11語であるのに対して、New Horizon は43語もあり、その違いは明らかである。このように、Here We Go! は、中学校の英語学習をスタートする1年生において、英語が苦手な生徒や学力低位の生徒にも過度の負担とならないような配慮がなされていると言える。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか

○学習指導要領には、文法について学ぶ内容が示されているか。

○学習指導要領に、学ぶ内容が示されている。また、教科書にも、巻末に整理した形で掲載されている。

○小学校で教科化されたが、中学校での学習の組み立てはどうか。

○小学校との接続は、意識されている。Here We Go!は、その点が充実している。また、3つのUnit と、その中で身に付けた表現を総合的に活用する言語活動 You Can Do It! をワンサイクルとした学習で構成されている。

○今回の教科書は、小学校での教科化を受けてのつくりになっているか。

○一つの例として、単語数は、増えている。また、即興性や、やりとり等を中学校でも意識している。

○英語科については、光村図書を採択するという点でよい。

#### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は、英語科について、光村図書を採択する。

特別の教科道徳について報告願う。

○特別な教科道徳の研究報告を行う。

それぞれの教科書を研究した結果、この地域にふさわしい教科書は光村図書の教科書であることを報告する。報告書の53ページを見てほしい。理由は3点ある。

1点目は、生徒が物事を多面的、多角的に考え、議論することで、多様な考えを認め合うことができるようになる工夫が見られることである。調査報告書の54ページ、教科書は1年生の102ページ、103ページ「捨てられた悲しみ」を見てほしい。読み物だけでなく表、新聞、ポスターなどの資料を組み合わせて活用する教材が用意されている。資料1から、犬、猫の殺処分の事実を知り、資料2では、飼う側の立場、資料3では犬や猫の立場に立った場合と多角的な視点で生徒が考えることができる。更に、資料1の殺処分される割合がかなり異なることに疑問を抱き、身の周りの状況と関連付けて生徒が考え続ける姿勢を持ち続けることも期待できる。同じく、1年生の教科書23ページから25ページを見てほしい。何枚か写真が、教材の流れに沿って配置されている。「ねぶた」を知らない生徒の理解を助けることができる。

2点目は、組織、配列、分量が、生徒の学校生活に沿ったものであり、我々、教師にとっても意図的、計画的に使いやすくなっていることである。2年生の教科書65ページを見てほしい。ここから連続する5つの教材により「働くことについて考える」ユニットとなる。教材13は「礼儀」、教材14は「勤労」、教材15は「伝統と文化」、教材16は「郷土愛」、教材17は「真理の探究」について考えを深めていく。このようにユニット全体で、働くことについて、単に労働し賃金を得ることだけでなく「働くことの意義や尊さ」について生徒が自身の視野を広げていながら学ぶようになっていく。また、2年生の教科書2ページ、3ページを見てほしい。年間を3つのシーズンに分け、今、見ている「働くことについて考える」ユニットは2年生のシーズン2に入る。



いくつかのユニットで構成されたシーズンはテーマがはっきりしており、かつ学校生活の流れに合わせたつくりとし、生徒の1年間の成長を意識した構成になっている。1つ、他社のものと比較する。日本文教出版の教科書の「もくじ」を見てほしい。光村図書同様、ユニットは日本文教出版でも見られるが、シーズンが設けられているのは光村図書だけとなっている。

3点目は、小学校からの接続が意識され、生徒が自身の成長をつかむことができる、ということである。1年生の174ページ「橋の上のおおかみ」を見てほしい。この教材は道徳の定番教材で、生徒は小学生の時の道徳の時間に、この教材について学んでいる。小学生のときは「おおかみはいじわる」としか思っていなかったが、改めて学び直すと「おおかみはさみしがり屋」「おおかみは気持ちが変わっていった」など様々な視点からの考えが生まれ、生徒の学びが多様化していく。新学習指導要領では、生徒がそれぞれの道徳的価値について学び続けることも重視されている。この教材のように、同じ教材について学び直し、小学校の時に学んだことと比較することで、生徒は自身の心の成長について実感できる機会となると考える。また、他社の教材と比較すると、比較的平易な言葉と表現により、どの生徒にも読みやすく、内容が理解しやすくなっている教材が多いと感じた。量的には、6ページ以上の教材が光村は1教材に対して、日本文教出版は8教材であった。読むことへの負担が減ることで、授業中、考えたり議論したりする時間を十分確保することができることも、光村図書をふさわしいと判断する大きな理由である。以上で報告を終わる。

○質問や意見はあるか。

○臓器移植やドナー等、それぞれの教科書が、命について扱っていると思うが、光村図書はどうか。

○光村図書の2年生に「つながる命」という内容がある。

○「つながる命」は、編集委員会が制作している内容である。道徳的価値に対して、各教科書会社の傾向が出てきている。これは注目すべき点である。「命を培う」ということはこれからも考えていかなければならない大切な内容である。

○多様性とどう向き合っていくか。人ばかりでなく、自然などを含めて、子どもたちは、広い視野を持つことが大切だと思う。

○特別の教科 道徳については、光村図書を採択するというところでよいか。

#### ※委員一同異議なし

○確認する。磐田市は、特別の教科道徳について光村図書を採択する。

○以上で議案が終了した。進行に戻す。

○連絡事項に移る。事務局説明を願う。

○今後のスケジュールについて説明する。本日、磐田市において採択案の同意が得られた。今後2市1町の同意が得られたら、磐田周智地区の採択教科書が決まる。学校へは、来年度の教科書の準備のための需要数報告があるので、来週には校長宛に連絡を入れる予定である。

県教育委員会は、8月末に行われる教育委員会定例会で承認を得たのち、9月1日以降、全地区の採択教科書を公開する予定である。本市においては、情報公開条例に則り研究報告書や採択結果については、請求に応じて開示する。本教育委員会議事録は、ホームページにて公表していく。なお、本日の資料については、回収する。

### 3 閉会